

リアルタイム地震被害推定情報の実証実験

マルチハザードリスク評価研究部門 高橋郁夫

Point

- 国内で発生した地震の発生直後にリアルタイムで被害を推定！
- 社会実装に向けて利活用の実証実験を継続中！
- 民間企業の利活用の促進、ニーズや課題等の抽出を実施！

研究の領域

予防	応急対応	復旧・復興
予測・情報力		
防災基礎力		

概要

防災科研では、地震災害における早期の初動対応の確立等を目的として、地震発生直後にリアルタイムで被害推定を行い、その情報を発信するシステムを開発した。本システムでは、地震発生時に、日本全国に配置された地震計から観測データをいち早く収集して面的な地表の揺れを推定し、これを基にして、建物や人的な被害を推定する。これらの被害推定情報はパソコンやスマートフォンで見ることができ、また、加工して防災情報として活用できるようにデジタル値としても出力される。本システムの社会

実装に向けて、民間企業等の利活用を促進し、またニーズや課題を抽出するために、実証実験を継続して行っている。今年度は様々な業種から39機関がこの実証実験に参加しており（昨年度は31機関）、各々の企業が防災に関する独自の視点からこの被害推定情報の利活用方法を模索している。

今後の展望・方向性

防災科研では、実証実験によって抽出されたニーズや要望、問題点や課題を踏まえ、様々な分野での利活用が進むように、被害推定や情報配信の方法等の改良や高度化に役立てていく。

